



バッハの森通信

第 163 号
2024年
4月20日発行

一般財団法人バッハの森

〒300-2635 茨城県つくば市東光台2-7-9

http://www.bach.or.jp

☎ 029-847-8696 / Fax 029-847-8699

e-mail : info@bach.or.jp

郵便振替 00380-4-16119 一般財団法人バッハの森

客観的に歴史書として読む

聖書の面白さ

3月下旬に寒い気候がいつまでも続き、桜の開花予想が何回も延期されていましたが、3月末日、復活祭の日に、突然、初夏のような陽気になりました。このような異常気象は通常のこととなり、その原因が地球の温暖化であることは広く認められています。このままいくと私たちが地球上に住めなくなる日が、それほど遠くないように見えますが、どうでしょう？

それなのに世界のあちこちで戦争をしています。ウクライナでも中東でも、落としどころがみつからないまま、延々と破壊と殺人が繰り返えされ、犠牲者が日々増えています。

* * *

最近、エルサレムに住むユダヤ人の友人から、示唆に富む手紙をもらったので、一部紹介します。彼は古代オリエント史の研究者で大学教授でしたが、定年後、今は自宅でセミナーを開いています。

彼によると、「ガザを巡る戦争は突然起こったわけではありません。私たちは目を開いて、イスラエル人とパレスチナ人の闘争が、二つの政治的存在の形成よりも、軍事的優越と政治的組み合わせによって解決できるという幻想に基づく、長期にわたる問題の放置 (neglect) と傲慢な姿勢 (arrogance) の結果であることに気付かなければいけません。この際、(100年前にユダヤ人がパレスチナ移民を始めた) シオニズム運動の始まりから現代に至るまで語られてきた、いろいろな考え方を精査して、正しい結論に到達できることを願っています。複雑な構造の武器を持つ強力なイスラエル軍が、単純で原始的な装備しか持たない敵に挑戦されている現状に

呆れています。この事実は、私たちが必要としているのは複雑な構造の武器ではなく、複雑な事情に精通した指導者だということを示しています」。

ガザを巡る不幸な戦争を引き起こした原因が「問題の放置」と「傲慢な姿勢」、その問題解決の鍵には「複雑な事情に精通した指導者」が必要だという分析と主張は、当然、イスラエルの現右派連立政権に向けられた言葉ですが、いかにも研究者らしい問題の分析と解決の提案は、国際政治だけではなくその他の諸問題にも適応される優れた提案だと思います。

* * *

バッハの森は宗教団体でも政治団体でもありませんし、何か問題の解決を目指して活動しているわけでもありません。教会音楽の楽しみを分かち合う友人の集いです。ただ、教会音楽は、ヘブライズムを土台に、ヘレニズム (ギリシャ文化) の世界で花開いた文化、要するに聖書を歌詞とする音楽です。ですから、聖書を無視 (“neglect”) できません。しかし、信仰に基づいて聖書を読むわけではなく、信仰を理解して、客観的に歴史書として読みます。面白いですよ。皆さん、どうぞご参加ください。(石田友雄)

訃報

聖グレゴリオの家の橋本周子さんが3月25日に亡くなりました。彼女は、特にバッハの森の草創期に声楽の指導の他、いろいろなことを相談できる大切な友人でした。深い感謝と共にご冥福を祈ります。また聖グレゴリオの家の皆様にお悔やみを申し上げ、皆様が、教会音楽の喜びを広く世の中に伝えたいという彼女の思いを継承されて、これからもご活動なさってゆかれることを願っております。

バッハの森 石田友雄

弟子たちが聖書の中に見つけ出した

人の命を守る不思議な小羊

*この文章は、2024年3月17日に開かれた「創立記念コンサート：小羊讃歌」のプログラムに基づいて作成されました。

バッハの森は、1985年1月に開館されました。バッハ生誕300年記念の年と重なったのは偶然です。そこで、今年が創立39年目と数えますが、その前年1984年5月に関係者の皆さんと着工記念会を開いていたので、創立40年目と言うべきかもしれません。

ここで「バッハの森記念奏楽堂」と名付けた理由を説明しましょう。“Memorial Concert Hall”と表記すると、「記念」の意味がさらにはっきりします。私たちが、故人になられた先人たちから受け継いだ文化とその他諸々の恩恵があって、初めてバッハの森が創立されたことを決して忘れないための命名でした。創立者のオルガニスト、石田一子も、残念ながら16年前に故人になりましたが、教会音楽の感動を皆さんと分かち合う喜びの実現を目指して、両親から相続した遺産を、バッハの森建設のために全額寄付した彼女の姿勢に感銘を受けた方々が、バッハの森の創立に参加してくださいました。それから40年、バッハの森の活動を支えてくださった多くの皆さんを含め、今は「記念」に広い意味をこめてます。

*本日のコンサートのテーマは、イエス・キリストを「神の小羊」、ラテン語で“Agnus Dei”（アニユス・デイ）、ドイツ語で“Gottes Lamm”（ゴッテス・ラム）と呼ぶ意味を明らかにすることです。

ナザレのイエスの弟子たちは、十字架で処刑された彼の亡骸を葬った後になって、初めて彼が誰であったか、本気で考え始めました。この現象を新約聖書は、彼らが「復活したイエスに出会った」と表現します。そして、彼らは、後に旧約聖書と呼ばれる「聖書」の中に、答えを見つけ出したのです。

苦難の僕(シメベ)

先ず、彼らが、これこそイエス・キリストの受難を預言していると考えた、イザヤ書53章の「苦難の僕(シメベ)」の箇所を拾い読みしましょう。

「彼には見るべき輝きもなく、私たちが慕う美貌もなかった。彼は蔑まれ、見捨てられ、痛みと病いに苦しむ人であった。私たちの病いと痛みを負っていたのに、彼は神に打たれたのだと、私たちは思っていた。しかし彼は私たちの背きのために刺し貫かれ、私たちの過ちのゆえに、打ち砕かれたのだ。彼が受けた罰によって私たちは平安を与えられ、彼が受けた打ち傷によって私たちは癒やされたのだ。私たちは皆、羊の群れのように彷徨い、おのおの自分の道に向かった。私たちのすべての過ちに、主は彼に執り成しをさせた。彼は虐げられたが口を開かず、屠り場に引かれて行く小羊のように、毛を刈る者の前で黙っている雄羊のように口を開かなかった。不法な裁きにより彼は取り去られ、悪人とともに葬られた。彼は自分の命を注ぎだして多くの者のために罪を負い、背く者のために執り成しをするであろう」。

これは、紀元前10世紀から400年続いたユダ王国が滅亡し、エルサレム神殿が破壊され、支配階級が捕虜としてバビロンに連れて行かれた捕囚時代の末期に、50年続いた捕囚はもうすぐ終わる、と預言して人々を元気づけた「第二イザヤ」と呼ばれる預言者の言葉です。バビロン捕囚という民族滅亡の危機に直面して、神に選ばれた民族だと信じてきた自分たちが、なぜこのような目に遭わなければならなかったのか、この苦境から救われる望みはあるのか、と問い続けた第二イザヤは、この苦しみは、かつて唯一の神と結んだ契約を破った自分たちに降された神罰であり、その罪は自分で償うには大きすぎると悟ったとき、自分たちに代わって罪を償ってくれる者を送ってくれるほど神の憐れみは大きい、という信仰に到達したのです。ここから、罪を犯した自分たちに代わって苦難を背負い、神に執り成してくれる「苦難の僕」が生まれました。そしてイエスの弟子たちは、ナザレのイエスこそ「苦難の僕」に他ならないと思ったのです。

過越祭(スキヨサイ)と主の晩餐

イエスが誰であったか、聖書に探し求めた弟子たちが見つけ出した最も重要な答えは、出エジプト記12章が伝える「過越祭の起源」にありました。「その月の14日の夜、家族ごとに傷のない一歳の雄の小羊を一匹屠ってその肉を食べ、家の入り口の柱と鴨居にその血を塗れ。その夜、神はエジプト中を廻って

初子(ウイロ)を殺したが、入り口に小羊の血が塗られている家は過ぎ越した」。

これは、紀元前13世紀頃、エジプトで奴隷にされていたイスラエル人の先祖が、神に助けられ、モーセに率いられてエジプトを脱出したときの出来事です。「死」が過ぎ越して「命」を守られた救いを民族の始まりとして、エジプト脱出後、シナイ山で神と契約を結び、神に選ばれた民族となったイスラエル／ユダヤ人は、この出来事を「過越祭」として今日まで守ってきました。マタイによる福音書26章は、イエスと弟子たちが、エルサレムで過越祭の晩餐をしたときの様子を次のように伝えます。

「一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、祝福してそれを裂き、弟子たちに与えて言われた。取って食べよ。これは私の体である。また杯(サズキ)を取り、感謝を捧げて彼らに与えて言われた。皆この杯から飲め。これは罪が許されるように、多くの人のために流される私の契約の血だ」。

十字架に架けられる前の晩に、イエスが、小羊の肉の代わりにパン、血の代わりにワインによって過越祭の聖餐を弟子たちに与えたことから、後に復活したイエスに出会った弟子たちは、十字架上で血を流して処刑されたイエスが「過越の小羊」の役目を果たした方であったことを悟ったのは当然です。小羊の血によって「死」が過ぎ越し、「命」が救われたように、イエスの十字架によって、「死」すなわち「罪」が贖われ、「命」すなわち「救い」が与えられたと信じたのです。こうして、イエスは、神に捧げられた小羊、すなわち「神の小羊」と呼ばれるようになりました。

イエスが弟子たちにパンとワインを与えて、これは私の体、これは私の血と告げた過越祭の晩餐は、後にキリスト教徒と呼ばれるようになる人々の間で、礼拝のクライマックスの儀式となりました。そして教会はこの儀式を「聖餐式」或いは「聖体拝領」として今日まで伝えてきましたが、後代になって、その際に「神の小羊」の讃美を捧げることが習わしとなりました。

ゲッセマネの園の祈り

過越祭の晩餐后、イエスと弟子たちは、ゲッセマネの園に行きました。逮捕され、死刑になることを予知していたイエスは、弟子たちに「ここで待て」と言い、ペテロたち三

人を連れてさらに奥に行きましたが、苦しみ悩み始めて言われました。「私は死ぬほど苦しい。私と共に目を覚ましておれ」。さらに進んで祈って言われました。「父よ、できることなら、この杯(サズキ)を私から過ぎ去らせてください。しかし、私の望むようにはなく、あなたが望まれるように」。このときのイエスの思いをコラール「絶えず御意志(ニコロ)のなること願う」が表しています。

「絶えず御意志(ニコロ)のなること願う」 “Was mein Gott will, das g'scheh allzeit”

1. たえ ず み こ ころ の な
い と よ き た す け を そ
る こ と ね が - - う。 こ ら し
な え た ま え - - ば。
め る か み は た す け も あ
た え、 よ り た の む も の
を み す て た ま わ - - ず。

1. 絶えず御意志(ニコロ)のなること願う。
いと善き助けを備えたまえば。
懲らしめる神は助けも与え、
寄り頼む者を見捨てたまわず。
2. 主はわが慰め望みと命。
みこころなるときわれ逆らわず。
御言葉、正しくすべてを知る主、
われらを護れば欠けるものなし。
3. 罪人(ツビト)なるわれ御旨(ミメ)によりて世を去るために従いまつる。
貧しき魂(タマシ)ゆだねまつりて。
わがため罪と死破りたまえり。
4. 主よ、与えたまえ、ひるまぬ心。
悪(ア)しき霊、我を試みるとき。
み栄えのために導きたまえ。
われ唱えまつる、心よりアーメン。

それからイエスが弟子たちのところへ戻ってみると、彼らは眠りこんでいました。このようなことを三度繰り返したところで、「立て、行こう。裏切り者が近付いて来た」とイエスが言われたところに、ユダに案内され

た、祭司長や長老たちが派遣した人々が来てイエスを逮捕しました。

イエスを裏切ったのはユダだけではありません。「お前もあいつの仲間だろ」と言われると、ペテロは「いや、あんな人、私は知らない」と言いましたし、弟子たちは皆、逃げ散ってしまいました。ゲッセマネで逮捕され、大祭司たちの尋問の後、ローマ人知事ピラトから死刑判決を受け、刑場ゴルゴタで十字架に架けられるまで、イエスは独りで受難を受け入れました。後に弟子たちは、このイエスの姿をあのかの「苦難の僕(シメバ)」に重ね、彼が負った十字架が「過越の小羊」が果たした犠牲であったと理解したのです。

コラール「神の小羊」

コラール「神の小羊」は、ミサ通常文の“Agnus Dei”(アニユス・デイ)のパラフレーズで、十字架の上のイエスの姿を明らかにします。

「神の小羊、罪なく」
"O Lamm Gottes, unschuldig"

1-3. {か み の こ ひ つ じ に
十 字 架 の ひ う つ え に
つ た み な し く ほ ふ ら れ }
み え の び た も う }
つ み を 主、お わ - ず ば、
わ れ ら ほ ろ び ぬ。
1-2. あ わ れ み た ま え、お お イ エ ス。
3. へ い わ を た ま え、お お イ エ ス。

- | | |
|---|--|
| 1.-2. 神の小羊、
罪なく屠られ、
十字架の上に
耐え忍びたもう。
罪を主、負わずば
我ら滅びぬ。
憐れみたまえ、
おおイエス。 | 3. 神の小羊、
罪なく屠られ、
十字架の上に
耐え忍びたもう。
罪を主、負わずば
我ら滅びぬ。
平和をたまえ、
おおイエス。 |
|---|--|

バッハの「マタイ受難曲」(BWV 244)の導入合唱は、エルサレムを擬人化したシオンとその娘たちの対話によって、ローマ人知事ピラトから死刑の判決を受けたイエスが、十字架を背負ってヴィア・ドロロサ(悲しみの

道)を刑場ゴルゴタに向かう姿を描きます。原曲はシオンが第一合唱、娘たちが第二合唱として歌う応唱形式ですが、今回は翻訳した対話を二人で朗読しました。こうして、シオンと娘たちが対話によって眼前に進んでいくイエスの姿を描くと、そこにコラール「神の小羊」のソプラノ斉唱が入って、その情景が意味することを明らかにします。

第I合唱 シオン

第II合唱 娘たち

来てください、貴女方、
娘たちよ、
私が嘆くのを助けてください。
ご覧なさい。

誰を？

花婿を。
ご覧なさい、彼を。

どんな様子ですか？

小羊のようです。

コラール斉唱：神の小羊 罪なく屠られ

ご覧なさい。

何を？

その忍耐を

コラール斉唱：十字架の上に 耐え忍びたも

ご覧なさい。

どこを？

私たちの罪を。

コラール斉唱：罪を主、負わずば 我ら滅びぬ

ご覧なさい、彼を。

愛と憐れみから

十字架の木をご自分で背負いたもう彼を。

コラール斉唱：憐れみたまえ、 おおイエス。

冒頭、小羊を「花婿」と呼ぶことによって、イエスの受難が死で終わらず、屠られた小羊は復活して昇天し、天の王国の王である父なる神と共に正義が支配する世界を確立することを暗示しています。この状況は1世紀末、2世紀にかけてローマ帝国の迫害に耐えて終末の救いを信じて殉教した信徒たちを花嫁として迎える小羊を「花婿」として描く、ヨハネの黙示録に記されています。

(石田友雄)

歌詞を集中的に学ぶ

マタイ受難曲の素晴らしさを再確認

第8回・朝のオルガン音楽鑑賞会
2024年3月1日

今回、初めて「朝のオルガン音楽鑑賞会」に伺わせていただきました。大好きな「マタイ受難曲」のレクチャーがある、という大変魅力的な内容に釣られて伺ったのですが、拝聴した音楽や演奏に加えて参加型のレクチャーによって歌詞を母国語で深く味わい、その重要性を再認識する、とても貴重な機会になりました。

マタイ受難曲の有名な導入合唱は、第I合唱と第II合唱が応唱する間を、少年が歌うソプラノ・イン・リピエノのコラール斉唱があるという3群の演奏が同時進行する音楽です。これまで合唱部分の歌詞については、対訳で確認しても、一語一語じっくり向き合う機会が多くありませんでしたが、今回、先ずマタイ受難曲の慣れ親しんだメロディーではなく、歌詞のみを抜き出し、プログラム前半にライブツィヒ手稿譜による2曲のオルガン編曲とそのコラールをユニゾンで日本語で歌うという機会を頂き、改めて歌詞の意味と存在意義を日常の感覚の一部としてとらえ直すというとても貴重な体験を得ることができました。

今回、歌詞に集中することによって、「何となくマタイ受難曲が大好き」という気持ちだけで歌っていたものが、改めて歌詞の内容を深掘りすることによって、本質的に重要な内容が見えてきて、曲の感じ方が大幅に変化したような気がします。今までもずっと素晴らしい音楽だと思って、聞いたり演奏したりしてきましたが、その構造をより深く知ることにより、更にその素晴らしさを再確認しました。

歌というものは、大雑把に「音楽」「言葉（歌詞）」、また別の観点から「発声」「発音」の二つに分かれると感じています。これらに、発声、発音、それぞれ特有のリズム＋音楽によるリズム、和声進行、ハーモニーも加わります。歌詞は言葉による「構造」（骨組み）そのものであり、それは楽譜が音楽の

構造を描いたものであることと同様に、譜面から起こされることによって、二次元的設計図である楽譜が、演奏によって三次元的空間に立体的に想起され、ただの音の羅列ではないストーリー的な起承転結のある音楽になると同様に、言葉で構造を作られた歌詞という譜面状の設計図は、歌われることによって言葉を超えた、言語では表現し切れない何か大きな流れの空間的表現に変貌されるような気がしました。

音楽家が譜面という平面的設計図から、演奏することによって立体的本質的な音楽を立ち上げて聴衆に届けると同様に、譜面に書き留められた歌詞を立体的に起こし、言葉によって言語を超えた本質的なメッセージを人々の心に届けるのは歌手の責任だと改めてその重要性を認識しました。すなわち、書き留められた歌詞という言葉のメモを、生きた言葉に変換して聴衆に届けるという、重要な作業を改めて考え直す機会になりました。

ある大歌手が「客席の一番後ろまで言葉を届けるつもりで演奏する」と仰っていたのを初めて聞いたときは、発声のみに関心を置きがちだった自分にとって衝撃でした。声楽はどうしても必要な技術的難易度が高くなるため、演奏技術の習得向上に重点を置かざるをえないのですが、言葉を伴う音楽は歌と朗読だけですので、発声と同じくらい発音が重要であると今回再認識しました。「マニフィカート」（BWV 243）のように音楽寄りの美しい流れで進行していくタイプの曲もありますが、マタイ受難曲は語りによって物語りが進行していくので、より言葉が重要なのです。

発声（音楽）に強弱があるように、言葉（歌詞）にも強弱があります。それは単に適当に強弱をつければ良いというものではなく、楽譜上の歌詞は言葉を超えた立体的な意味合いを含んだものを平面図に落とし込まれているに過ぎず、その平面構造には必ず元の立体構造による理由があり、遠近法のように近いものは大きく見えたり、光のある場所には影が出来たり、楽譜という平面にメモにされた建造物を、再度空間にイメージして演奏として再構築すること、この再構成のプロセスにこそ、それぞれの時代やジャンル内での一定の法則を守りつつ、その中で無限の自由さと創造性を展開すること、これこそが演奏者の醍醐味だと感じております。

また、「母国語で歌詞を読む」ことがとても重要であることを再認識しました。学部4年生のとき取っていたオペラの授業は、全て日本語訳による歌唱でした。当時は、イタリアやドイツの曲に無理矢理日本語をねじ込んだ違和感が苦手でしたが、授業がなければ今もずっと舞台上で対話の全く生まれない棒読み歌唱をしていただろうと思うので、本当に良かったと思える授業でした。これは、声だけでなく言葉で伝える必要性を実感した最初の機会でした。

教会音楽で歌詞を学ぶ機会は多くありません。日本人はキリスト教に馴染みがないこともあり、その歌詞の理解と実践に苦勞している人たちが身近に少なからずいたことを知っています。

バッハの森のコンサート

多くを学べる貴重な機会

創立記念コンサート「小羊讃歌」
2024年3月17日

コロナ禍明けの年、思い立って5年振りにつくば市のバッハの森を訪問しました。正直に申せば、会費滞納のお詫びと、もう一つ高齢の石田友雄先生を心配してお会いしに行ったのですが、御年92歳にして衰えを知らず、新しいレクチャー&コメントのスタイルに挑戦されるお姿に驚き、刺激を受け、元気を頂戴しました。

お母上の介護のため、今回が最後のステージになったというバッハの森クワイアの指揮者、比留間恵さんにもご挨拶し、彼女のご指導のお陰で、今回、完成度の高い合唱を聴けたことにも感激しました。

それにしても石田先生のご長寿は驚きです。その秘訣は、真摯に聖書と向き合い、聖書と音楽の融合によって教会音楽を生み出した文化を、私たちに分かり易く伝えようとレクチャーを工夫される創造力にあると感じました。分かり易く、と言っても決して質を落とさず、流行に媚びず、いかに真理を伝えるかと言う課題をライフワークとして日々追求されている、しかも楽しんでいらっしゃる

対話の朗読の中に参加者全員でコーラル「神の小羊」の斉唱を入れてマタイ受難曲の導入合唱が終了した後で、プログラムの最後にオルガン演奏が流れている間、深い祈りのような、瞑想のような時間があり、騒がしい日常を忘れてしばし天上の音楽に静かに漂う心地良い空間となりました。

今回は今までの実践と経験に重なった内容も沢山あり、個人的に大変興味深いプログラムとなりました。この度は、このような機会とご縁を頂きましたこと、そのためにご尽力下さった方々に深く感謝の意を申し上げます。（山口陽子）

うかがい、これこそが、ご長寿の秘訣だと拝察しました。

私は、知的障害がある子どもたちを教育する養護学校の教諭を務めてきましたが、何にせよ子どもだましではない、「本物」だけが重度の障害を持つ子どもたちも惹きつける凄さをもっていることを経験してきました。また教師として授業デザイン（指導案）を作成してきたので、ややもすると何十年でも同じことを繰り返す、マンネリ授業案になってしまう恐れがあることを知っています。ですから、常に「本物」を提供なさる友雄先生の「生涯現役、生涯勉強、生涯前進」の姿勢に圧倒されました。

今回のコンサートのテーマは「小羊讃歌」でしたが、イエスが十字架にかけられて亡くなった後、弟子たちが初めて本気になってイエスとは誰であったか、その答えを聖書の中に探し求めたという説明を興味深くうかがいました。それによると、捕囚時代末期に第二イザヤが伝えた、人々の罪の執り成しをした「苦難の僕(シハバ)」、或いは、エジプトで奴隷にされていたイスラエル人の先祖が、エジプトを脱出したときに、神のお告げに従い、入り口に犠牲の小羊の血を塗っておくと死が過ぎ越して救われて命を得たという「過越の小羊」などを、イエス・キリストが誰であったかを示す預言であると信じたイエスの弟子たちの宣教活動から、キリスト教は始まったということでした。

今回、最も印象深く、耳に痛くうかがった言葉は、ゲッセマネの園で、その翌日十字架

にかけられることを予測していたイエスが、「父よ、できることなら、この杯(カザキ)を私から過ぎ去らせてください。しかし、私の望むようにはなく、御意志(ミコト)のままに」と祈られた言葉でした。コンサートでは、この箇所をコラール「絶えず御意志(ミコト)の／なること願う」をクワイアの合唱の後で参加者全員が斉唱しました。

私は曹洞宗の檀家の生まれで、時々善光寺や近所の神社に所構わずお参りして、自分勝手なエゴ丸出しの願い事をしては、御利益が叶わないと「やっぱり神も佛もない！」と自分の至らなさを棚に上げて神仏を試すようなことを言っただけは失望を繰り返す愚か者です。このイエスの祈りの言葉は、とても耳に痛く響き、恥入りました。この祈りの真意は、神様は必ず良い筋書きを用意してくださるから、困難な状況にあるときも不運をなげくのではなく、どんな状況であろうと神様が定めてくださった状況が最善だという神に対する絶対の信頼だと思います。こうして神の選択に委ねて生きることが「心の平安」につながるのではないのでしょうか。

また、十字架につけられたイエスに向かって、「神の子なら十字架から降りてみる」と神を試した愚かな人々と自分も同じだと気付かされました。子どもの頃、何かを選ぶとき「どれにしようかな？神様の言うとおりに」とおまじないのような決まり文句を唱えたことを思い出しました。このような素直な気持ちはどこへ行ってしまったのでしょうか。天国に入るには子どものようにならなければならない、という教えに気が付き、愚かな自分を思い知らされた。

以前、バッハの森のコンサートで、イザヤ書から「目があっても見えない者たち、耳があっても聞こえない者たち」という言葉と、ヨハネの福音書から生まれつき目の見えない人の目をイエスが癒やすと、その人は目が開けて見えるようになったが、その事実を認めないファリサイ派の人々に「見えない者は見えるようになり、見える者は見えなくなる」とイエスが言われたお話を引用して、自分が見えないことを自覚していた生まれつきの盲人は、素直にイエスに願って目を開けていただけて見えるようになったが、先入観にとらわれて生まれつきの盲人の目が開かれた事実を認めようとしなかったファリサイ派の人々には事実が見えないという解説を聞いたことを覚えています。丁度その頃、私は十分

事情を調べもしないで、同僚の行為を非難していた最中でしたので、自分はすべて見える気になっていたが、実際は事実が見えていなかったらしいと反省する機会を得ることができました。「盲人が盲人を導いて穴に落ちることがないように」、教師として、子どもたち、同僚たちをよく見て理解することが大切だと改めて気づきました。

このように、バッハの森での学びは、毎回、きづきや新しい発見を得られる貴重な体験です。できるだけバッハの森の活動に参加したいのですが、土日には障害がある子どもたちに水泳の指導をしており、なかなか参加できずに残念です。去年のクリスマスには、長野の障害者施設で、バッハの森で手ほどきを受け、こちらで組織して練習してきたハンドベルの演奏をしました。いずれ必要な時に絶好のタイミングで、バッハの森の活動に参加できる機会が与えられるのではないかと期待しております。

石田先生、バッハの森の皆様、唯一無二な「バッハの森」の学びを末永くご継続ください。よろしくお願いいたします。皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

信州信濃の善光寺の地より（正村寿満子）



創立記念コンサートの演奏者たち



日誌 (2024. 1. 1~3. 31)

*R: オンライン参加

- 1. 6 訪問 染谷淳人氏、智子氏(ピアニスト) 他3名。
- 1. 11 クリスマス飾り付け片づけ 参加者4名。
- 1. 18、19、22 植栽整理 鈴木造園
- 2. 3 運営委員会 参加者6名 (R 2)
- 2. 5、6 外壁修理塗装 鈴木造園
- 3. 1 朝のオルガン音楽鑑賞会 参加者15名
- 3. 9 運営委員会 参加者5名 (R 1)
- 3. 17 創立記念コンサート 参加者42名
- 3. 28 訪問 染谷淳人氏、智子氏(ピアニスト) 他3名、
豊田弓乃氏(ヴァイオリニスト、
桐朋学園大学音楽部教授)、紀子氏
(ピアニスト)、リサ氏。

コラール・カンタータ入門

カンタータ: J. S. バッハ「私のイエスを私は放さない」
(BWV 111)

J. S. バッハ「私の神がのぞまれること、
それが常に起こるように」 (BWV 124)

J. S. バッハ「マタイ受難曲」 (BWV 244)
導入合唱

コラール: C. カイマン「わがイエスキみを放しまつら
じと」

- A. フォン・ブランデンブルク
「絶えず御意志のなること願う」
- N. デチウス「神の小羊、罪なく屠られ」

- 1. 13 オルガン: 安西文子 参加者4名+12名
- 1. 20 オルガン: 笠間きよ子 参加者4名+10名
- 1. 27 オルガン: 笠間きよ子 参加者7名+16名
- 2. 3 オルガン: 安西文子 参加者4名+12名
- 2. 10 オルガン: 安西文子 参加者4名+16名
- 2. 17 オルガン: 安西文子 参加者6名+18名
- 2. 24 オルガン: 金谷尚美 参加者5名+15名
- 3. 2 オルガン: 金谷尚美 参加者5名+17名
- 3. 9 オルガン: 金谷尚美 参加者5名+18名

学習コース

バッハの森クワイア 1. 13/12名、1. 20/10名、
1. 27/16名、2. 3/12名、2. 10/16名、
2. 17/18名、2. 24/15名、3. 2/17名、
3. 9/18名、3. 16 (ゲネプロ) /17名

オルガン音楽研究会 1. 19/9名、2. 2/8名、
2. 16/9名

オルガン・クラブ 1. 12/4名、1. 26/4名、
2. 9/4名、3. 8/4名

歴史書・聖書入門 1. 13/5名、1. 20/6名 (R 1)、
1. 27/6名 (R 1)、2. 3/5名 (R 1)、2. 10/
6名 (R 1)、2. 17/7名 (R 1)、2. 24/7名
(R 1)、3. 2/6名 (R 1)、3. 9/7名 (R 1)

ハンドベル・クワイア 1. 20/5名、2. 10/6名、
3. 2/6名、3. 9/6名

ハンドベル・リンガーズ 1. 21/6名、2. 25/10名、
3. 10/8名

オルガン・レッスン 1. 19/2名、2. 16/2名

チェンバロ・レッスン 1. 12/4名、1. 19/4名、
2. 16/4名、3. 28/4名

オルガン、クラヴィコード、チェンバロ練習

- 1. 10/1名、1. 11/3名、1. 12/7名、1. 13/
1名、1. 18/4名、1. 19/5名、1. 20/1名、
1. 23/1名、1. 24/1名、1. 25/2名、1. 26/
4名、1. 27/1名、1. 30/2名、2. 1/1名、
2. 2/1名、2. 3/1名、2. 8/2名、2. 9/4名、
2. 10/1名、2. 13/1名、2. 15/2名、2. 16/
6名、2. 17/2名、2. 22/1名、2. 24/1名、
2. 29/2名、3. 1/2名、3. 2/1名、3. 6/1名、
3. 7/2名、3. 8/4名、3. 9/1名、3. 14/1名、
3. 16/1名、3. 17/1名、3. 21/2名、3. 25/
1名、3. 26/1名、3. 28/5名